

平成 30 年度
日本商工会議所

第149回

簿記検定試験

3 級

【解答・解説】

この解答例は、当社で作成したものです。
解答中に記載してある配点は、当社で考えた予想配点です。

LEC東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド
(C)2018 TOKYO LEGAL MIND K.K., Printed in Japan
無断複製・無断転載等を禁じます。
有効期限 2018年6月10日/2018年11月17日



0 000212 182044
BL18204

第 149 回 解 答

第 1 問 (20 点)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	手 形 貸 付 金	600,000	普 通 預 金 受 取 利 息	594,000 6,000
2	売 掛 金	490,000	売 上 金 現 金	480,000 10,000
3	貸 倒 引 当 金 貸 倒 損 失	50,000 80,000	売 掛 金	130,000
4	広 告 宣 伝 費 支 払 手 数 料	35,000 300	普 通 預 金	35,300
5	備 品 減 価 償 却 累 計 額 未 収 入 金 固 定 資 産 売 却 損	560,000 20,000 120,000	備 品	700,000

仕訳 1 組につき各 4 点 合計 20 点

第 2 問 (10 点)

(イ)	(ロ)	(ハ)	(a)	(b)
前 払 保 険 料	損 益	次 期 繰 越	14,000	15,400

各 2 点 合計 10 点

第 3 問 (30 点)

合 計 残 高 試 算 表

平成 30 年 4 月 30 日

借方残高	借方合計	勘定科目	貸方合計	貸方残高
★ 255,000	544,000	現 金	289,000	
★ 359,000	2,245,000	当 座 預 金	1,886,000	
840,000	1,130,000	受 取 手 形	290,000	
★ 435,000	1,300,000	売 掛 金	865,000	
20,000	120,000	前 払 金	100,000	
	15,000	仮 払 金	15,000	
570,000	570,000	繰 越 商 品		
1,200,000	1,200,000	建 物		
★ 854,000	854,000	備 品		
★	330,000	支 払 手 形	627,000	297,000
	497,000	買 掛 金	870,000	373,000
★	40,000	所得稅預り金	48,000	8,000
	86,000	未 払 金	440,000	354,000
	200,000	借 入 金	600,000	400,000
		貸 倒 引 当 金	22,000	22,000
		建物減価償却累計額	480,000	480,000
		備品減価償却累計額	200,000	200,000
		資 本 金	1,784,000	1,784,000
★	10,000	売 上	3,000,000	2,990,000
★ 1,413,000	1,462,000	仕 入	49,000	
550,000	550,000	給 料		
350,000	350,000	水 道 光 熱 費		
23,000	23,000	通 信 費		
30,000	30,000	旅 費 交 通 費		
★ 8,000	8,000	租 稅 公 課		
★ 1,000	1,000	支 払 利 息		
6,908,000	11,565,000		11,565,000	6,908,000

★の行につき 3 点 合計 30 点

第 4 問 (10 点)

①	②	③	④	⑤
キ	エ	サ	ケ	カ

各 2 点 合計 10 点

第149回 解答

第5問 (30点)

貸借対照表

平成29年12月31日

(単位：円)

現金	(108,000)	買掛金	(210,000)
普通預金	(520,000)	借入金	(200,000)
売掛金 (360,000)		(前受金)	(20,000)
貸倒引当金 (△ 7,200)	(352,800)	未払費用	(3,500)
商品	(203,000)	前受収益	(30,000)
(前払)費用	(15,000)	資本金	(3,000,000)
備品 (2,120,000)		当期純(利益)	(100,300)
減価償却累計額 (△755,000)	(1,365,000)		
土地	(1,000,000)		
	(3,563,800)		(3,563,800)

損益計算書

平成29年1月1日から平成29年12月31日まで

(単位：円)

売上原価	(2,177,000)	売上高	(3,980,000)
給料	(1,900,000)	受取手数料	(770,000)
貸倒引当金繰入	(7,000)		
減価償却費	(255,000)		
通信費	(230,800)		
支払家賃	(75,000)		
保険料	(1,200)		
雑(損)	(200)		
支払利息	(3,500)		
当期純(利益)	(100,300)		
	(4,750,000)		(4,750,000)

□につき3点 合計30点

【3級総評】

全体としては基本から標準レベルの問題でした。過去に出題されている論点も多く、合格答練などでしっかりと準備していれば、合格点を取ることは十分に可能な難易度でした。

【解説】

第 1 問

仕訳に関する問題です。勘定科目は指定された中から最適なものを選んで、正確に記入する必要があります。

1. 手形貸付金

貸付けにあたり、相手方から約束手形を受取った場合は、受取手形ではなく、手形貸付金で処理します。また、利息額を差引いた ¥594,000 を普通預金の減少として処理します。

2. 売上・売上諸掛

売上を ¥480,000 計上し、売上代金を売掛金とします。また、先方負担の発送費は、「掛代金に含める」ので、売掛金で処理します。

3. 売掛金の貸倒れ

前期発生 of 売掛金が貸倒れた場合は、まず、貸倒引当金を充当し、不足分は貸倒損失とします。

4. 広告宣伝費の支払い

広告宣伝費を普通預金口座から振込む際に発生する振込手数料は、支払手数料で処理します。

5. 備品の売却

売却した備品の売却代金と売却時点における帳簿価額との差額を売却損益とします。なお、後日受取る売却代金は、未収入金で処理します。

売却時点における帳簿価額： ¥700,000 - ¥560,000 = ¥140,000

売却損益： ¥20,000 - ¥140,000 = △ ¥120,000 (売却損)

第 2 問

勘定記入に関する問題です。期首から期末までの勘定記入の流れを考えながら解答していきます。

1/ 1 期首

① 開始記入

前払保険料について前期から繰越されてきた金額をもって、前期繰越の記入をします。前期の 8/1 に 1 年分の保険料として ¥24,000 を支払っているため、前期末(12/31)に保険料 ¥14,000 を繰延べています。よって、前払保険料勘定の借方 1 行目に「1/1 前期繰越 14,000」と記入します。

<前期末における保険料の繰延べ>

(借)	前	払	保	険	料	14,000	(貸)	保	険	料	14,000
-----	---	---	---	---	---	--------	-----	---	---	---	--------

前払保険料： ¥24,000 × $\frac{7\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}}$ = ¥14,000

② 再振替仕訳

前期末における保険料の繰延べの処理に基づいて、再振替仕訳を行います。上記①の逆仕訳を行います。

(借)	保	険	料	14,000	(貸)	前	払	保	険	料	14,000
-----	---	---	---	--------	-----	---	---	---	---	---	--------

第149回 解説

8/ 1 保険料の支払い

今年の支払いは、¥24,000 よりも10%アップしているので、¥26,400 です。また、問題資料の保険料勘定借方2行目より、現金で支払っていることが分かります。

(借)	保	険	料	26,400	(貸)	現	金	26,400
-----	---	---	---	--------	-----	---	---	--------

12/31 期末

① 保険料の繰延べ

翌期の1月から7月までの分を繰延べます。

(借)	前	払	保	険	料	15,400	(貸)	保	険	料	15,400
-----	---	---	---	---	---	--------	-----	---	---	---	--------

前払保険料：¥26,400 × $\frac{7\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}}$ = ¥15,400

③ 損益勘定への振替え

保険料勘定の決算整理後残高¥25,000 を損益勘定へ振替えます。

(借)	損	益	25,000	(貸)	保	険	料	25,000
-----	---	---	--------	-----	---	---	---	--------

(参考)

保 険 料

1/ 1 (前払保険料)	(14,000)	12/31 (前払保険料)	(15,400)
8/ 1 現 金	26,400	" (損 益)	(25,000)
	(40,400)		(40,400)
1/ 1 (前払保険料)	(15,400)		

前払保険料

1/ 1 (前期繰越)	(14,000)	1/ 1 (保 険 料)	(14,000)
12/31 (保 険 料)	(15,400)	12/31 (次期繰越)	(15,400)
	29,400		29,400
1/ 1 (前期繰越)	(15,400)	1/ 1 (保 険 料)	(15,400)

損 益

12/31 (保 険 料)	(25,000)
---------------	----------

第 3 問

合計残高試算表の作成に関する問題です。

解答手順としては、まず【資料 2】平成 30 年 4 月中の取引の仕訳を行います。次に、この仕訳と【資料 1】平成 30 年 3 月末の合計試算表に基づいて、勘定科目ごとに 4 月末における合計と残高を集計し、答案用紙の平成 30 年 4 月 30 日の合計残高試算表を作成していきます。

【資料 2】平成 30 年 4 月中の取引

2 日	(借)	売	上	10,000	(貸)	売	掛	金	10,000				
3 日	(借)	未	払	金	86,000	(貸)	現	金	86,000				
4 日	(借)	仕	入	182,000	(貸)	前	払	金	30,000				
						買	掛	金	150,000				
						現	金	金	2,000				
5 日	(借)	旅	費	交	通	費	12,000	(貸)	仮	払	金	15,000	
		現	金	3,000									
6 日	(借)	所	得	税	預	り	金	13,000	(貸)	現	金	13,000	
10 日	(借)	現	金	50,000	(貸)	売	上	250,000					
		売	掛	金	200,000								
12 日	(借)	仕	入	120,000	(貸)	支	払	手	形	120,000			
13 日	(借)	租	税	公	課	3,000	(貸)	現	金	3,000			
16 日	(借)	買	掛	金	57,000	(貸)	支	払	手	形	57,000		
18 日	(借)	受	取	手	形	200,000	(貸)	売	上	200,000			
20 日	(借)	給	料	100,000	(貸)	所	得	税	預	り	金	8,000	
								当	座	預	金	92,000	
24 日	(借)	当	座	預	金	175,000	(貸)	売	掛	金	175,000		
25 日	(借)	水	道	光	熱	費	73,000	(貸)	当	座	預	金	73,000
	(借)	通	信	費	9,000	(貸)	当	座	預	金	9,000		
26 日	(借)	備	品	354,000	(貸)	未	払	金	354,000				
27 日	(借)	支	払	手	形	80,000	(貸)	当	座	預	金	80,000	
30 日	(借)	借	入	金	200,000	(貸)	当	座	預	金	201,000		
		支	払	利	息	1,000							

第4問

帳簿や会計処理などに関する文章の穴埋め問題です。それぞれが何について述べている文章かを把握して、適切な語句を選択できたかがポイントです。

1. 貸倒引当金は、受取手形や売掛金の期末残高のうち翌期中に回収ができないと見込まれる金額を意味します。この貸倒引当金を受取手形や売掛金の期末残高から控除することで、翌期中に回収が可能だと見込まれる金額を評価することができます。そのため、評価勘定と呼ばれます。
2. 買掛金元帳は、仕入先ごとの買掛金の増減や残高を把握する補助簿であり、仕入先元帳ともいいます。
3. 建物の修繕により建物の価値が増加した場合、その価値増加に関する支出を資本的支出といい、建物を新たに取得したと考えて処理します。そのため、建物について資本的支出があったときは、建物勘定で処理します。
4. 3伝票制の場合、入金伝票・出金伝票・振替伝票という3種類の伝票を用いて処理します。
5. 商品有高帳は、商品ごとの在庫管理を行うために、受入・払出・残高について原価で記録をとる補助簿です。

第 5 問

財務諸表作成に関する問題です。収益・費用の勘定の決算整理後残高を損益計算書に、資産・負債・純資産の勘定の決算整理後残高を貸借対照表に記入します。財務諸表に記入するときは、仕訳で使う勘定科目と財務諸表上の表示科目の違いに留意しながら記入します。

決算整理事項等は次のとおりです。

1. 現金過不足

現金過不足の借方残高 ¥1,000 のうち ¥800 は通信費へ振替えます。残りの ¥200 は雑損とします。

(借) 通 信 費	800	(貸) 現 金 過 不 足	1,000
雑 損	200		

2. 売上にかかる内金の修正

内金の受取時に、前受金ではなく、売上として処理しているため、訂正仕訳を行います。

〈内金受取時の仕訳〉

(借) 現 金	20,000	(貸) 売 上	20,000
---------	--------	---------	--------

〈訂正仕訳〉

(借) 売 上	20,000	(貸) 前 受 金	20,000
---------	--------	-----------	--------

3. 仮払金の精算

仮払金 ¥120,000 が備品の購入によるものであったことが判明したので、仮払金から備品へ振替えます。

(借) 備 品	120,000	(貸) 仮 払 金	120,000
---------	---------	-----------	---------

4. 貸倒引当金の設定

売掛金の期末残高に対して、貸倒見積額を計算します。

(借) 貸 倒 引 当 金 繰 入	7,000	(貸) 貸 倒 引 当 金	7,000
-------------------	-------	---------------	-------

貸倒見積額：¥360,000×2%=¥7,200

貸倒引当金繰入：¥7,200－¥200=¥7,000

5. 売上原価の算定

まず、期首商品棚卸高を繰越商品勘定から仕入勘定に振替えます。次に、期末商品棚卸高を仕入勘定から繰越商品勘定に振替えます。これにより、仕入勘定の決算整理後残高は売上原価となります。

(借) 仕 入	180,000	(貸) 繰 越 商 品	180,000
(借) 繰 越 商 品	203,000	(貸) 仕 入	203,000

6. 減価償却

(借) 減 価 償 却 費	255,000	(貸) 備 品 減 価 償 却 累 計 額	255,000
---------------	---------	-----------------------	---------

従来分：¥2,000,000÷8年=¥250,000

新規分：¥120,000÷8年× $\frac{4ヶ月}{12ヶ月}$ = ¥5,000

第 149 回 解 説

7. 支払家賃の繰延べ

支払済の家賃のうち、翌期分を繰延べます。

(借) 前 払 家 賃	15,000	(貸) 支 払 家 賃	15,000
-------------	--------	-------------	--------

8. 受取手数料の繰延べ

当期に受取った受取手数料のうち、翌期分（1月分）を繰延べます。

(借) 受 取 手 数 料	30,000	(貸) 前 受 手 数 料	30,000
---------------	--------	---------------	--------

9. 支払利息の見越し

借入金の利息について、当期末において未払いとなっている分を見越し計上します。

(借) 支 払 利 息	3,500	(貸) 未 払 利 息	3,500
-------------	-------	-------------	-------

$$\text{未払利息} : \text{¥}200,000 \times 3\% \times \frac{7\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}3,500$$